和教時報

2022年３月15日（火）発行　第1983号（毎月15日発行）
発行所／〒640-8269 和歌山市小松原通3-20　和歌山県教職員組合
TEL 073-423-2261　FAX 073-436-3243　情宣部長／山口法之
1部　20円（購読料は組合費に含みます）

教育連合学習会　2.24　県民文化会館

医療現場からコロナ禍の子どもを見て

和教組　副執行委員長　野口　共

教育連合とは、教育要求の実現のための運動をすすめる共同組織で、正式名称は「民主教育をすすめる和歌山県民連合」と言います。保護者の方々とも一緒に一〇月に行われる教育要求県民集会を主催し、年二回程度、学習会を行っています。

二月二四日にオンライン併用で学習会を行いました。参加者は二五人でした。

講演は、和歌山生協病院の佐藤小児科医による「コロナウィルス感染（デルタ株）拡大で子どもたちの健康と生活習慣はどのように変化したか」という演題で、民医連と佛教大学が共同で行った二〇一九年と二〇二一年の「子育て生活実情調査」をもとにしたお話でした。

▲会場の様子

▶佐藤洋一先生

この調査は、三歳から中学三年生までの子どもを持つ保護者が対象で、小学校四年生から中学三年生の子ども本人からも調査を行ったものだそうで、コロナウィルスは、社会的弱者に対して大きな影響を及ぼしていることがわかりました。

最後にオミクロン株流行後の担当医としての実感について話してくださり、子どもたちへの影響という面では、心身の不調を訴える子どもが増加している、オンライン授業や学級閉鎖などの影響か、生活リズムの乱れで起立性調節障害を発症している子どもがいるなど、様々な事例等も報告されました。

今回の講演であらためてコロナウィルスに関して正しく理解し、正しく恐れることの必要性と脆弱な保健理療体制を作ってきた政治の責任が大きいことを、再認識することができました。

輝いてワンショット

ただ今勉強中

（ヤングジャンボリーより）

ピンのスポット 400

昨日（三月三日）、和歌山県教育委員会教育支援課から障害児学校に対し、「まん延防止等重点措置区域における集中的検査の実施について」という通知がだされました。これは県内の障害児学校教職員に対して、コロナウイルス検査キットによる抗原検査を三月中に週一回、計三回実施するということが示され、教職員が自分で検査をして、その結果によって対応していくというものです。

和教組が求めてきたことがある程度前進したことは評価できます。

県内でも市町によっては、小中学校の教職員に同様の対策をしているところがありますが、現在の学校におけるクラスターや感染拡大の状況をみると、早急に県内すべての学校に同じ措置をすべきです。

また、まん防が解除された後もこの措置を継続し、教職員や子どもたちに安心感を与える努力をすべきです。（Y）

青年部大会&ヤングジャンボリー

学びたい 集まりたい つながりたい の思い広がる！

2月26日

大会では、この一年間の各支部の活動をお互いに報告しました。レクリエーションや食べることが中心の（？）青年部の活動は、コロナ禍でどの支部でも困難になっています。その中でも「来年度は新採の先生のケアをしたい」「オンラインを活用して交流したい」「未組の先生も誘いたい」など、前向きな交流でした。

ヤングジャンボリーは、実践交流会を行い、①小学校低学年、②小学校高学年と中学校（急きょ合体）、③障害児教育の三分科会に分かれてレポート報告にもとづき交流しました。参加者の感想を紹介します。

◇中学校の先生と交流する機会はほとんどないので、算数や数学の話で盛り上がり楽しかったです！

◇支援学校と支援学級の違いも実際のお話を聞くことでイメージを持ちやすかったです。

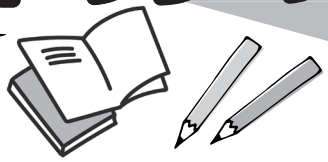
◇オンラインでは雰囲気が掴みにくいのではないかと不安だったのですが、こじんまりした会でほっこりした分科会でした。

◇集まって話をすることは大切だと感じます。このつながりが年に一回ではなく、他支部の学習会に顔を出すなど年に数回になれば、組合のつながりが強まると思います。

「学びたい」「集まりたい」「つながりたい」…そんな思いがいっそう強まったようでした。

採用試験 合格めざして！

「あすの教師塾」再開！



夏の教員採用試験に向け、「あすの教師塾」が再開しました。今回はコロナの感染防止のため、当初予定していた「対面」を急遽、「オンライン」に変更しての開催となりました。

コロナ禍、年度末で多忙をきわめる中で、一〇名以上の方が参加され、和歌山大学の先生から「教職専門」「小論文」について学びました。

四月以降、採用試験の日程や内容を踏まえ、和歌山大学の先生方と相談して、「あすの教師塾」を計画していきます。具体的な日時・内容が決まり次第、臨教組合員の方には個別に案内を送付し、速報や和教時報等でもお知らせします。可能な限り、和歌山市と田辺市の二会場で「対面」で開催したいと思っていますが、コロナの感染状況によっては「オンライン」での開催になる場合もありますのでご了承ください。

和教組では、組合員のみなさんの合格をめざして、「あすの教師塾」のほかにも、採用試験模試や面接練習等、できる限りの応援をしていきます。学校現場の多忙化が深刻化する中で、仕事と採用試験の勉強との両立はたいへんだと思いますが、合格めざして、がんばってください！

＊過去の試験問題のデータもありますので、必要な方は和教組本部又は各支部まで連絡してください。

伊都・橋本子育てと教育を考える会のとりくみ

立場をこえて集まろう 息の長い取り組みに!!

伊都支部　書記長　窪田　賢

二〇一二年、伊都地方で県教研が開催された時に伊都では小中一貫教育、保育園の民営化問題などの教育問題が起こっていました。県教研をきっかけに「橋本の教育を考える会」を立ち上げましたが定例化ができませんでした。八年後、伊都地方での県教研をきっかけに「伊都・橋本子育てと教育を考える会」と改名し再開をしました。

参加団体は和教組・和高教・橋本市職労・学童保育指導員そして個人加入の方などです。例会は二ヶ月に一度と決め、最初の学習会は「今日の保育園教育について」橋本市内の保育園の先生に話を聞きました。保育園にも教員定数があり四歳児は三〇人に一人の保育士と聞いて驚きました。

二回目は、ひきこもり支援サークル「とらいあんぐる」のとりくみを聞きました。自己肯定感や仲間意識を育てるための活動内容や大切にしていることを聞きました。

三回目はコロナ感染拡大のため延期をしていますが、高校再編問題や少人数学級実現など教育の課題はたくさんあります。

この会を息長く続けていきたいと思います。

2/23 教育基礎講座

コロナ禍こそ実践交流会がやっぱり大切！

和歌山市支部　書記長　平田　秀一

二月二三日（木）一〇時から市教育会館にて教育基礎講座を開催しました。今年度を振り返りつつ、一年の締めくくりや来年度の学級作りに生かせるような会にすることを目的としました。参加者はオンラインでの参加も含めて、一三名の方が出席してくれました。

公認心理師の資格を持つ青年教職員が、神経発達症の理解と支援をテーマに報告してくれました。参加者からは、「最新の障がいについての考え方、具体的な実践が聞けて参考になった」、「クラスを持っている中で、〝あ、あったな〟と思いながら事例を聞いていました。子の行動ではなく、前後の環境から改善を考えるのはどこでも大事だと感じました」、「特別支援についての学習会で、子ども理解につながりました。一人ひとりにあった支援を教員が見取り評価することが大切だと感じました」など、実践に向かう新たなエネルギーを感じる感想がたくさん寄せられました。

「自閉症の子どもについての声かけや支援の仕方について学びたい」など、次回への要望も寄せられました。コロナ禍でなかなか集まりにくいですが、工夫してみんなで集まって実践交流していくことを続けていきたいと思います。

シリーズ 中教審答申

学校のゆくえ

POINT 8 「令和の日本型学校教育」が出されてから１年

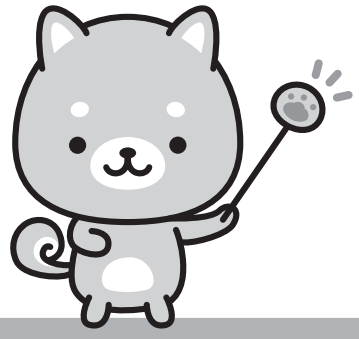
中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」が出されてから学校教育はどの様に変化しているでしょうか。

コロナ感染は終息するどころか更に感染力が強くなり、県下各地で学校や学級閉鎖等、非日常への対応に追われました。答申ではsociety5.0の到来に向け、ＩＣＴ機器の活用を推し進めていますが、地域や学校により、子ども達の成長や発達、教科や必要性に応じて先生方が「教育ツール」として対応している様子が聞こえてきます。

学校閉鎖中に授業を配信していた高校で、オンライン授業の単元を振り返ったところ、理解度が他の単元に比べて低く、課題は大きいという実践後の反省が聞こえてきました。また、小学校の低学年では家庭のフォローも必要となることから授業配信のハードルは高いようです。教職員の働き方からの視点ではデータを活用すればもっと合理化できるという声や、子ども達がノートに書いた解答を一斉に見ることができるので机間巡視をする必要がなくなったという声もあります。一つの側面ですが、今までの当たり前を見直すきっかけにはなっているでしょう。

しかし機器活用のための校内研修の時間が増えたことや、コロナ対応で多忙化が解消されたという声はほとんどなく、子ども達に向き合う時間や教材研究の時間が減っているという悩みもある様です。「もっと一人一人に向き合いたい」という願いがより強まっていることからも、国の少人数学級の施策が不十分であることは明らかです。

また、県学テを中学校で二回実施などの点数競争、教職員への研修強化の計画で、さらに国の「教育再生」路線を突き進めています。子ども不在の教育施策ではなく、子ども達が主人公の学校づくりのために、声を上げるのが私たちの役割です。



原稿大募集 新連載開始！

来月号から「ぜひ、あなたにも読んでいただきたいこの一冊」と題して、いろいろな方からおすすめの本の紹介をしていただきます。

支部や本部の教文部長の方を中心に紹介していただく予定ですが、「この本をみんなに読んでいただきたい」という希望があれば原稿を募集します。

その本にまつわるエピソードやおすすめの部分などを六〇〇字程度にまとめていただき、和教組情宣部までメールで送ってください。

たくさんの方のご協力を、お待ちしています。

2022年度

奨学生募集のお知らせ

無利息で奨学金を貸付します。

応募資格	国・公・私立大学・大学院・短期大学・高等専門学校（第４学年以上の在学生に限る）及び専修学校（学校教育法「第７章の２」に基づく）に在学しているか、入学手続きを完了したもの。（但し海外の大学は対象外です）
募集期間	2022年２月１日～４月30日
募集人員	20～25名
貸付金額	修学１年につき25万円で、新入学の場合、最高４年で100万円
利　息	無利息（但し、返済期限を過ぎた場合は延滞利息を徴収します）
申込方法	ジブラルタ生命教弘担当社員、または、下記の事務局へ申し出てください。「奨学生申請書」をお送りします。
選考・決定	当支部の教育振興事業選考委員会にて審査、選考をおこない、和歌山支部長の推薦をへて本部理事長が決定します。
奨学金送金予定	2022年６月初旬
奨学金の返済	奨学金は原則として卒業年の12月を第１回とし、100万円借用者の場合は10回以内、それ以外は８回以内の年賦返還（毎年12月）。

日本教育公務員弘済会和歌山支部
〒640-8269 和歌山市小松原通3-20
TEL. 073-421-7881
FAX. 073-488-7202